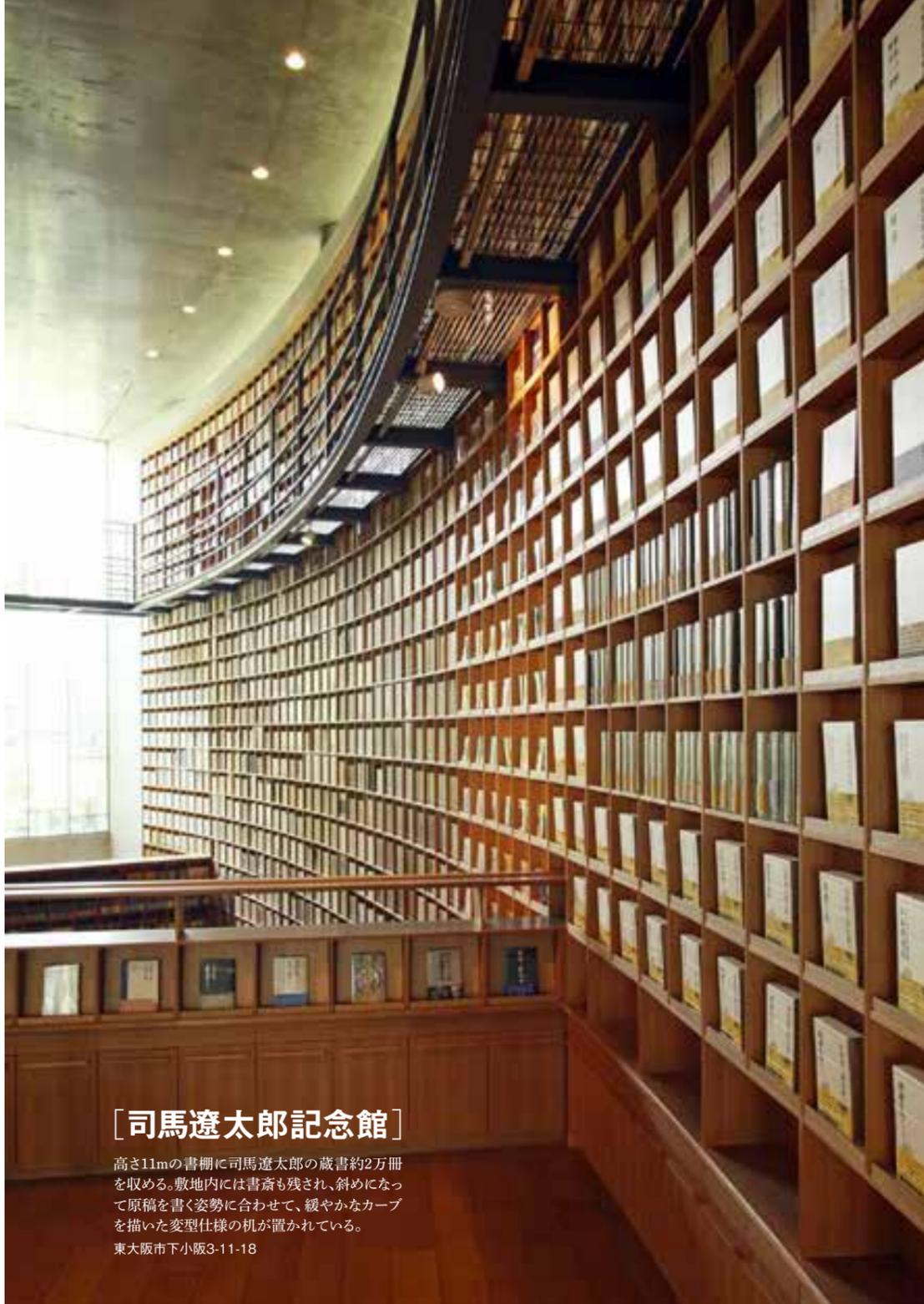


# 司馬遼太郎

(1923~1996)

## 「大阪市・東大阪市」 司馬文学の軌跡をたどる

文：川岸徹 写真：大腰和則



### 「司馬遼太郎記念館」

高さ11mの書棚に司馬遼太郎の蔵書約2万冊を収める。敷地内には書斎も残され、斜めになって原稿を書く姿勢に合わせて、緩やかなカーブを描いた変型仕様の机が置かれている。  
東大阪市下小阪3-11-18

大阪中の古書店から、坂本竜馬に関する本が一日にして消えた……。累計約2400万部の売り上げを誇る『竜馬がゆく』を筆頭に、幾多のベストセラーを残した文豪・司馬遼太郎。本を愛し、執筆の際には、古書店にトラックで乗り付け、書物を片っ端から買い求めたという。

司馬が1964年から32年間を過ごした終の棲家の敷地内に建つ「司馬遼太郎記念館」(東大阪市小阪)を訪れると、そんな逸話が少しも大袈裟なものではないと感じる。床から天井まで、埋め尽くされた本。これらはすべて司馬の蔵書だったもので、総数は約2万冊にもなる。

「司馬さんの蔵書が散逸してしまうのが嫌で、なんとかまとめて残したいと考えていました。すると約8400件にも及ぶ個人、企業からの寄付が集まり、こうして記念館が設立できたわけです」と館長の上村洋行さん。

人々に愛される司馬遼太郎。その人柄は、記念館の近くにあるうどん店「桜井」でも垣間見えた。かつて司馬遼太郎の元で女

### 「西長堀団地」



大阪市西区北堀江4-2-40

私は、大阪で仕事をしている。堀江の西長堀という川の多い町に十階建てのアパートがあり、その十階にいます。時代小説風に説明すると、このアパートの敷地は、むかし土佐藩の蔵屋敷があった敷地の角に、藩邸を守護するお稲荷さんがあり……(略)

〔歴史と小説〕  
〔集英社〕

### 「土佐稲荷神社」



大阪市西区北堀江4-9-7

司馬遼太郎が住んだ西長堀団地の10階から(写真右)。眼下には土佐稲荷神社が見える。商人たちは神社を「土佐ノ稲荷」と呼び、親しんだという。

### 「桜井」

司馬遼太郎の好みは「きつねうどん」「きつねうどん」に気が入ると、同じものばかりを注文するんです。私が女中だった頃、毎日カマンベールチーズを食べていたこともありましてと女将さん。



東大阪市小阪本町2-13-15

### 「適塾」

船場北浜、御堂筋のすぐ裏手に、近代的なビルに囲まれ今も残る町家風のたたずまい、緒方洪庵の適塾は、昭和二十年の大空襲にも奇跡的に焼失を免れ、往時の姿をとどめている。

〔司馬遼太郎の日本史探訪〕  
〔角川書店〕



大阪市中央区北浜3-3-8



### 「大阪城公園駅」

ただ、思うべきである。とくに春、この駅に立ち、風に乗る万緑の芽の香に包まれるとき、ひそかに、石垣をとりまく樹々の発しつづける多様な信号を感應すべきであろう。

駅開業に寄せて司馬遼太郎が書いた詩(同駅展示の陶板より)

大阪市中央区大阪城3



中を勤めていたという女将さんがこう話す。「司馬先生は店の場所探しまで手伝ってくれたんですよ。そのうえ開店祝いに手書きの『のれん』をいただいで」。人を愛し、そして大阪という街を生涯愛した司馬遼太郎。1983年、住まいの近くに大阪城公園駅が開業した際には、お祝いとして詩を贈った。その詩は陶板に写され、現在も駅改札口を飾っている。

ここに移り住む以前、司馬は大阪市西長堀の「西長堀団地」で暮らしていた。若き日の司馬は、ここを基点に取材に励んだ。江戸時代の蘭学者・緒方洪庵が開いた「適塾」、団地の隣に立つ「土佐稲荷神社」など、数々の史跡を訪ね歩いた。土佐藩出身の志士、坂本竜馬を主人公にした『竜馬がゆく』が生まれたのは、この団地時代のことである。

さらに同じ頃、『臯の城』が第42回直木賞を受賞……。後に司馬は西長堀団地について、こう振り返る。「不満は何もなかった。ただ、本が増え過ぎて、引越すしかなかった」と。